

令和2年度 北海道大学2次試験前期日程(数学問題)90分
文系(文, 教育, 法, 経済, 医(保健[看護・作業]))

1 k を正の実数とする. 座標平面上に直線 $l: y = kx + 1$ と放物線 $C: y = x^2$ がある. l と C の交点のうち x 座標の小さい方を P , 大きい方を Q とする. さらに, 線分 PQ の垂直二等分線を m とし, m と C の交点のうち x 座標の小さい方を R , 大きい方を S とする.

- (1) 線分 PQ の中点 M の座標を k を用いて表せ.
- (2) k が正の実数を動くとき, 線分 RS の中点 N の y 座標が最小となる k の値を求めよ. また, そのときの P と Q の座標を求めよ.

2 関数

$$f(\theta) = \frac{1}{\sqrt{2}} \sin 2\theta - \sin \theta + \cos \theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

を考える.

- (1) $t = \sin \theta - \cos \theta$ とおく. $f(\theta)$ を t の式で表せ.
- (2) $f(\theta)$ の最大値と最小値, およびそのときの θ の値を求めよ.
- (3) a を実数の定数とする. $f(\theta) = a$ となる θ がちょうど2個であるような a の範囲を求めよ.

3 n を2以上の自然数とする. 1個のさいころを続けて n 回投げる試行を行い, 出た目を順に X_1, X_2, \dots, X_n とする.

- (1) X_1, X_2, \dots, X_n の最大公約数が3となる確率を n の式で表せ.
- (2) X_1, X_2, \dots, X_n の最大公約数が1となる確率を n の式で表せ.

4 座標平面上に2つの放物線 $C_1: y = 2x^2$ と $C_2: y = -x^2 + 2x - \frac{19}{8}$ がある.

- (1) C_1 と C_2 の両方に接する直線をすべて求めよ.
- (2) (1) で求めた直線のうち傾きが負であるものを l とする. C_1 , x 軸および l が囲む部分の面積を求めよ.

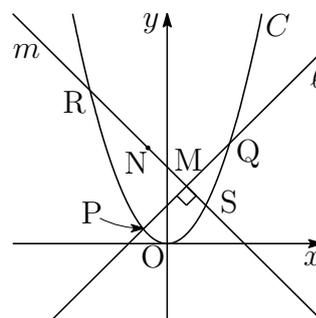
解答例

- 1 (1) $l: y = kx + 1$ と $C: y = x^2$ の方程式から y を消去して、整理すると

$$x^2 - kx - 1 = 0 \quad \dots (*)$$

この方程式の判別式を D とすると

$$D = k^2 + 4 > 0$$



したがって、2次方程式(*)の異なる2つの実数解を α, β とすると

$$\alpha + \beta = k \quad \text{ゆえに点 M の } x \text{ 座標 } \frac{\alpha + \beta}{2} = \frac{k}{2}$$

点 M は l 上であるから、その y 座標は $y = k \cdot \frac{k}{2} + 1 = \frac{k^2}{2} + 1$

よって、点 M の座標は $\left(\frac{k}{2}, \frac{k^2 + 2}{2} \right)$

- (2) P, Q の垂直二等分線 m は、点 M $\left(\frac{k}{2}, \frac{k^2 + 2}{2} \right)$ を通り、傾き $-\frac{1}{k}$ の直線であるから、その方程式は

$$y - \frac{k^2 + 2}{2} = -\frac{1}{k} \left(x - \frac{k}{2} \right) \quad \text{すなわち} \quad m: y = -\frac{1}{k}x + \frac{k^2 + 3}{2}$$

上の第2式と C の方程式から y を消去して、整理すると

$$x^2 + \frac{1}{k}x - \frac{k^2 + 3}{2} = 0 \quad \dots (**)$$

この方程式の判別式を D' とすると

$$D' = \left(\frac{1}{k} \right)^2 - 4 \cdot 1 \left(-\frac{k^2 + 3}{2} \right) = \frac{1}{k^2} + 2(k^2 + 3) > 0$$

したがって、2次方程式(**)の異なる2つの実数解を x_1, x_2 とすると

$$x_1 + x_2 = -\frac{1}{k} \quad \text{ゆえに N の } x \text{ 座標は } \frac{x_1 + x_2}{2} = -\frac{1}{2k}$$

点 N は m 上であるから、その y 座標は

$$\begin{aligned} y &= -\frac{1}{k} \left(-\frac{1}{2k} \right) + \frac{k^2 + 3}{2} = \frac{1}{2k^2} + \frac{k^2 + 3}{2} \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{1}{k^2} + k^2 + 3 \right) \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

相加平均・相乗平均の大小関係により

$$\frac{1}{k^2} + k^2 \geq 2\sqrt{\frac{1}{k^2} \cdot k^2} = 2 \quad \dots \textcircled{2}$$

②において、等号が成立するとき ($k > 0$)

$$\frac{1}{k^2} = k^2 \quad \text{すなわち} \quad k = 1$$

上式および ①, ② より, $k = 1$ のとき, 点 N の y 座標は, 最小値

$$\frac{1}{2} (2 + 3) = \frac{5}{2}$$

をとる. このとき, (*) は $x^2 - x - 1 = 0$ これを解いて

$$x = \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2}$$

P, Q は直線 $l: y = x + 1$ 上の点であるから, P, Q の条件により

$$P \left(\frac{1 - \sqrt{5}}{2}, \frac{3 - \sqrt{5}}{2} \right), \quad Q \left(\frac{1 + \sqrt{5}}{2}, \frac{3 + \sqrt{5}}{2} \right)$$

2 (1) $t = \sin \theta - \cos \theta$ の両辺を平方すると

$$t^2 = 1 - 2 \sin \theta \cos \theta = 1 - \sin 2\theta \quad \text{ゆえに} \quad \sin 2\theta = 1 - t^2$$

$$\text{よって} \quad f(\theta) = \frac{1}{\sqrt{2}} (1 - t^2) - t = -\frac{1}{\sqrt{2}} t^2 - t + \frac{1}{\sqrt{2}}$$

(2) $t = \sin \theta - \cos \theta$ より ($0 \leq \theta \leq \pi$)

$$t = \sin \theta - \cos \theta = \sqrt{2} \sin \left(\theta - \frac{\pi}{4} \right) \quad \text{ゆえに} \quad -1 \leq t \leq \sqrt{2}$$

$$(1) \text{の結果から} \quad f(t) = -\frac{1}{\sqrt{2}} \left(t + \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^2 + \frac{3\sqrt{2}}{4}$$

$$t = \sqrt{2} \sin \left(\theta - \frac{\pi}{4} \right) = -\frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{\pi}{12} \text{ のとき, 最大値 } \frac{3\sqrt{2}}{4}$$

$$t = \sqrt{2} \sin \left(\theta - \frac{\pi}{4} \right) = \sqrt{2} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{3\pi}{4} \text{ のとき, 最小値 } -\frac{3\sqrt{2}}{2}$$

$$(3) t = \sqrt{2} \sin\left(\theta - \frac{\pi}{4}\right) \text{ より } (0 \leq \theta \leq \pi)$$

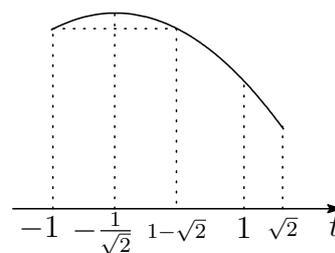
$1 \leq t < \sqrt{2}$ に対する θ は 2 個

$$g(t) = f(\theta) \text{ とおくと } (-1 \leq t \leq \sqrt{2})$$

$$g(t) = -\frac{1}{\sqrt{2}} \left(t + \frac{1}{\sqrt{2}}\right)^2 + \frac{3\sqrt{2}}{4}$$

$$g(-1) = g(1 - \sqrt{2}) = 1, \quad g\left(-\frac{1}{\sqrt{2}}\right) = \frac{3\sqrt{2}}{4},$$

$$g(1) = -1, \quad g(\sqrt{2}) = -\frac{3\sqrt{2}}{2}$$



よって、求める a の範囲は $-\frac{3\sqrt{2}}{2} < a \leq -1, 1 \leq a < \frac{3\sqrt{2}}{4}$

$$\boxed{3} \quad (1) \text{ 出る目が } \{3, 6\} \text{ である確率は } \left(\frac{2}{6}\right)^n = \frac{2^n}{6^n}$$

$$\text{出る目が } \{6\} \text{ である確率は } \left(\frac{1}{6}\right)^n = \frac{1}{6^n}$$

3 または 6 である確率からすべて 6 である確率を引けばよいから

$$\frac{2^n}{6^n} - \frac{1}{6^n} = \frac{2^n - 1}{6^n}$$

$$(2) \text{ 最大公約数が偶数である確率は } \left(\frac{3}{6}\right)^n = \frac{3^n}{6^n}$$

$$\text{最大公約数が } 3 \text{ である確率は } \frac{2^n - 1}{6^n}$$

$$\text{最大公約数が } 5 \text{ である確率は } \left(\frac{1}{6}\right)^n = \frac{1}{6^n}$$

求める確率は、これらの余事象の確率であるから

$$1 - \left(\frac{3^n}{6^n} + \frac{2^n - 1}{6^n} + \frac{1}{6^n}\right) = \frac{6^n - 3^n - 2^n}{6^n}$$

- 4 (1) $C_1: y = 2x^2$ と $C_2: y = -x^2 + 2x - \frac{19}{8}$ に接する直線を $y = ax + b$ とおく.
この直線と C_1, C_2 のそれぞれの方程式と y を消去して整理すると

$$2x^2 - ax - b = 0, \quad x^2 + (a-2)x + b + \frac{19}{8} = 0$$

このとき, これらの方程式の係数について

$$a^2 + 8b = 0, \quad (a-2)^2 - 4\left(b + \frac{19}{8}\right) = 0 \quad (\text{A})$$

上の2式から b を消去して整理すると $3a^2 - 8a - 11 = 0$

ゆえに $(a+1)(3a-11) = 0$ これを解いて $a = -1, a = \frac{11}{3}$

(A) の第1式より $(a, b) = \left(-1, -\frac{1}{8}\right), \left(\frac{11}{3}, -\frac{121}{72}\right)$

よって, 求める直線は $y = -x - \frac{1}{8}, y = \frac{11}{3}x - \frac{121}{72}$

- (2) (1) の結果から, 直線 ℓ の方程式は

$$y = -x - \frac{1}{8}$$

これと $C_1: y = 2x^2$ の共有点の x 座標は

$$2x^2 = -x - \frac{1}{8} \quad \text{ゆえに} \quad (4x+1)^2 = 0$$

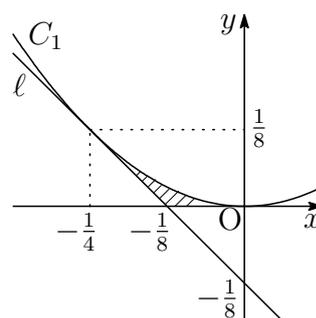
これを解いて $x = -\frac{1}{4}$

3点 $\left(-\frac{1}{4}, 0\right), \left(-\frac{1}{8}, 0\right), \left(-\frac{1}{4}, \frac{1}{8}\right)$ を頂点とする三角形の面積は

$$\frac{1}{2} \left(\frac{1}{8}\right)^2 = \frac{1}{128}$$

よって, 求める面積は¹

$$\int_{-\frac{1}{4}}^0 2x^2 dx - \frac{1}{128} = \left[\frac{2}{3}x^3 \right]_{-\frac{1}{4}}^0 - \frac{1}{128} = \frac{1}{384}$$



¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_bun.2009.pdf (p.6 の補足)